

ふりがな 氏名	こう てつき 黄 哲麒
学位の種類	博士（歯学）
学位記番号	甲 第1003号
学位授与の日付	令和6年3月1日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項に該当
学位論文題目	Association between tea types and number of teeth: a cross-sectional study of the Chinese Longitudinal Healthy Longevity Survey (お茶の種類と口腔残存歯数の関係：CLHLS 調査の横断研究)
学位論文掲載誌	BMC Public Health 第24巻 第400号 令和6年2月
論文調査委員	主査 三宅 達郎 教授 副査 富永 和也 教授 副査 本田 義知 教授

論文内容要旨

お茶は世界中で摂取されており、主に紅茶、烏龍茶、緑茶および花茶に分類される。お茶の摂取は、茶葉に含まれるフッ化物やカテキン及びテアフラビンの抗菌作用によって、口腔の健康の維持増進につながると報告されてきた。しかし、どのような種類のお茶を摂取すれば、口腔の健康の維持増進に役立つのかについての報告はほとんどない。そこで、本研究では、口腔の健康を表す指標として高齢者の残存歯数に着目し、異なる種類のお茶（緑茶、紅茶、烏龍茶、花茶）の摂取習慣と高齢者の残存歯数との関連を明らかにすることを目的とした。

2018年の中国長寿健康調査（Chinese Longitudinal Healthy Longevity Survey：CLHLS）のデータを用い、65歳以上の高齢者6,387人を対象とした。平均年齢は83.8歳で、そのうち、毎日歯磨きをする者は4,496人（70.4%）であったが、毎日歯磨きをしない者は1,891人と、全体の29.6%を占めていた。目的変数は、残存歯数（20歯以上、10歯以上）とし、説明変数はお茶の種類（緑茶、烏龍茶、紅茶、花茶）とした。また共変量は年齢、性別、民族、住居状況、地域状況、教育状況、健康状況、収入状況、喫煙状況、飲酒習慣、独居状況、歯磨き習慣、高血圧、糖尿病、心血管疾患の有無、BMI指数、砂糖摂取の頻度、ADL能力とし、性別と歯磨き習慣の有無で層別し、多変量ロジスティック回帰分析を行い、オッズ比（OR）と95%信頼区間（CI）を算出した。

その結果、20歯以上の残存歯数に対しては、男性では緑茶の摂取、女性では紅茶の摂取、10歯以上の残存歯数に対しては、男性では緑茶の摂取、女性では緑茶と花茶の摂取が関連した。また、歯磨き習慣の有無で層別した結果、毎日歯磨きをする群では、同様の関連が認められたが、毎日歯磨きをしない群では、男女ともに全てのお茶で残存歯数との関連は認められなかった。

これらの結果より、お茶とくに緑茶の摂取が高齢者の残存歯の維持に関連していることがわかった。しかし、この関連は歯磨き習慣がない者には認められなかったことから、緑茶の摂取が高齢者の残存歯に影響を及ぼす条件として十分な口腔清掃が必要であることが示唆された。

論文審査結果要旨

本論文は、口腔の健康を表す指標として高齢者の残存歯数に着目し、異なる種類のお茶（緑茶、紅茶、烏龍茶、花茶）の摂取習慣と高齢者の残存歯数との関連を検討した。

その結果、①20 歯以上の残存歯数に対しては、男性では緑茶の摂取、女性では紅茶の摂取が関連すること、②10 歯以上の残存歯数に対しては、男性では緑茶の摂取、女性では緑茶と花茶の摂取が関連すること、③歯磨き習慣の有無で層別した結果、毎日歯磨きをする群では、①、②と同様の関連が認められたが、毎日歯磨きをしない群では、男女ともに全てのお茶で残存歯数と関連しないこと、をそれぞれ示した。

すなわち、本論文は、お茶とくに緑茶の摂取が高齢者の残存歯の維持に関連し、その関連する条件として、十分な口腔清掃が必要であることを明らかにした。

以上のことから、本論文は博士（歯学）の学位を授与するに値すると判定した。